

# 健康新聞

新しい健康法を伝える新聞です

新健康協会は「心身をいやし、新たな神智によって視野を広げ、心の拠りどころになる救いの場」をめざして活動しています。新しい健康法を伝える「健康新聞」を毎月発行し、人間のもつ治癒力や適応力をお伝えしています。心と体をいやす「新しい健康法」を通して自然界の摂理を学ぶことで、人は生ある間に「どのように生き、何をすべきなのか」を知ることができます。

肉体的、精神的なコトでお悩みの方も是非一読されてみてください。

## 浄霊体験記

### 激しい熱 浄霊で楽になる

明主様のおかげで子どもたちも明るく元気に育っています！  
更年期障害や顔の歪み 数々のおかげをいただく  
八十歳を過ぎてても元気に動くことができ、嬉しい毎日です！

発行所 新健康協会 無料

新健康協会総本部 福岡市東区唐原6丁目7番1号  
TEL:092-661-1531 (代) HP:https://shinkenko.jp

2021 vol.774  
5月号 月刊 毎月1日発行



明主様御論文

左の御論文は、明主様(浄霊法の創始者)が昭和二十八年(一九五三)に発表されたものであります。御一読頂きまして、世界平和と心身に健全な人間作りを目指す私達の運動を、御理解頂ければ幸甚に思っています。

## 大恐怖時代来たらん

この題をみたら、誰しもギョッとするであろう。信者はそうでもあるまいが、初めてみた人はそう思うに違いあるまい。このことについては、普段から私はあらゆる面から説いてきたが、その時期が大分近づいたようだから、ここに徹底的に書くように思うのである。もちろん霊界における浄化作用が、日に月に強くなりつつある今日、近き将来一般社会も天手古舞をするようになるであろうが、それについて私は、最近医学革命の書なる著述を書き始めたが、これもその必要を痛感するからである。

そうして、信者はよく知っているであろうが、今日どんな人でもその薬毒の多いことは驚く程で、分かれば分かる程まことに恐ろしい気がする。と、いっても、今日世間を見ると至極健康そうにセッセと働いている人も沢山あるので、上辺からみると、そんな恐ろしい時代が来ようなどとは到底想像もつかないのである。そのような訳で、未信者は無論だが、信者でも信仰の新しい人などは、首を捻って容易に信じられないであろうが、実をいうと健康そうに見える人程危ない訳で、それというのは薬毒が大いにありながら、非

常によく固まっているからである。従っていよいよよとなると、むしろこういう人こそ一ペンに浄化が起って、真先に槍玉にあげられる側の人とみねばなるまい。

私は二十数年前から、病気の原因は薬毒であることを唱えてきたが、初めのうちはなかなか信じられない人が大部分であったが、信者になって長くなる程徹底するのである。

しかしこれも無理はない。何しろ先祖代々、病は医者と薬という合言葉同様に掌を返したようになってから、一度や二度で掌を返したようになってから人は、まずないといつてよからう。それでも近頃は分わかり方が早くなってきたようで、それだけこちらを見る目が違ってきた訳である。しかし前記のごとく浄化が段々

強くなる以上、分かる人もいよいよ増えるのは勿論である。というのは、医療の固め方法が一日増しに固まらなくなるからで、それに引き替え浄霊のほうは溶かす方法である以上、逆になるからで、つまり時節が浄霊に味方する訳である。

そうなると病人は増える一方で、今までにないような種類の病気が多くなり、医師はどうしていいかわからないことになって、二進も三進もゆかなくなるのは当然である。また今までなら直に効いた薬も注射も、全然効かないどころか逆結果となつて、医師が手をつけるやたちまち悪化したり、死んだりするとい

うような恐怖時代が来るであろう。こうなると、政府始め専門家も一般人も医学の真価が分かって、医療をボイコットせざるを得なくなるか

ら、これこそ大問題である。そこで始めて本教の説に頭を下げざるを得なくなるとともに、あの時随分変な説と思つて悪く言つたが、実に申訳なかつたということになり、ここに初めて目がさめるのである。

しかもこうなつたら命には代えられないから、インテリもジャーナリストも、束になつて救いを求めて来るのはもちろんだが、そうなら一どきになる以上、こちらはやりきれない。まあ事情の許す限り救つてはやるが、誰も彼もという訳にはゆくまいから、お気の毒だが外れた人は自業自得と諦めてもらうより仕方があるまい。大本教のお筆先に

こういふ一節がある。『いよいよとなりてから神にすがりて来たとして、後の祭であるぞよ。普段から神の申す事を上の空で聞いていた人民には、神はかもうておられんから、どうしようもないぞよ。にわか信心は間に合はんぞよ』という寸鉄殺人的の言葉がある。これが丁度私が今言わんとするところと同じである。またお筆先に『今度の建替えはこの世に神があるか無いかを分けて見せてやるのであるから、神あることが分かりたなら、いかな人民でも往生せずにはおれまいがな。』何と痛烈骨を刺す思いがするではないか。

ここで誰もあまり気がつかないことで、かつ他教に関することだから気が進まないが、何しろ時節が迫つて来たのと、人類救いのためとしたら、言わない訳にはゆかないから、思いきつて書くのである。それは何かという、いよいよ来たべき最後の審判に際しては、宗教

は何の役にも立たないことになるのである。というのは、その宗祖、開祖のほとんどが、もはや世を救う力がないどころか、ご自分およびその信徒が救われねばならないから、近來、私に対して後から後から嘆願に来る有様で、これにみてもその辺よく分かるであろう。なる程あらゆる宗教は、今までの世界が続いているとしたら、それ相應の役にはたつが、いよいよ世界大転換という空前の事態となつた以上、既成文化は一度は破局的運命とならざるを得ないからである。それとともに万教帰一の時となるので、ここにいっさいの宗教は一団となつて、本教を中心に人類救済はもとより、地上天国建設に協力することになるのである。


今一つ言わねばならないことがある。それは帰するところ、本教に背を向けて滅びるか、本教に抱かれて助かるかの、二者いずれかを選ばなければならぬことである。以上、今から覚悟すべきである。これが今後における全人類の課題でもある。

## 新健康協会とは

病氣・貧困・争いのない世界、人類の幸福を最大の目標とし、心身の健康と霊性の向上を目指した「浄霊法」と「自然農法」を実施。また「美術・芸術」による魂の向上に努めています。

本教の教祖『明主様』は昭和の初めより、幸福の原動力となる「浄霊」を確立され、特に病氣や色々な悩みで苦しむ多くの人を癒し、幸福へと導かれました。

Story Of Jove



**体験記**  
浄霊による個人の感想

浄霊は幸福を生む方法です。明主様は、幸福の根源は魂にあり、魂が浄まると運命が向上し、病気やあらゆる悩み苦しみが解消し幸せになることを、事実を以て示させていただきます。次に紹介してまいります数々の喜びと感謝の体験記も、それらを広く物語っています。

### 激しい熱 浄霊で楽になる



名古屋支部  
水田晴美(44)

私は両親が新健康協会の会員で、体調が悪い時はいつも浄霊をいたただいて元気になっていましたので、今までほとんど薬を使うことなく過ごしています。夫も会員ですので、子どもたちも同じように、できるだけ薬に頼ることなく育てていきたいと思っています。

昨年、家族で九州に滞在していた時のことですが、夜に次女が高熱を出しました。後頭部から首周りにかけて今までに体験したことがないくらい熱く、ぐずりますので、抱きかかえたまま浄霊をしていました。うつらうつらしてはビクツツとして目を覚ます状態を繰り返してありました。ふと目つきが変だなど思うと三回程激しくビクツツとし、目を見開いて焦点が合っていない状態でしたので、夫に浄霊を代わってもらいました。痙攣したり治まったりを何度か繰り返しおりましたが、二、三十分ほどで完全に治まりました。熱はまだとても高い状態が続いていたので、明主様に御守護のお願いをしました。

深夜は私が抱いて浄霊をしておりましたが、うつらうつら眠り、ビクツツとする繰り返しでした。午前三時半ごろに頭に汗をびっしょりとかい

て、それからぐっすり眠れるようになり、布団に寝かせることが出来るようになりました。朝には熱も随分下がっており安心致しました。

翌日は車で名古屋に帰りましたが、また熱が上がったので車内でも浄霊し、無事に帰ることができました。

三、四日目には熱も随分下がりました。五日目の朝には全身に発疹が出ており、突発性発疹の症状のようでした。少し落ちていた食欲も六日目には戻り、機嫌よく遊んだり歩き回ったりするようになり、おかげ様ですっかり元気になりました。

次女が一歳になったばかりのことでしたので少しの心配はありましたが、明主様から、熱が出るのは体内の要らないものを排出する過程であることを教えていただいていますので、要らないものを排出した分、前よりも元気になれると分かっています。慌てずに対処することができました。おかげ様で、浄霊を知っていたからこそ、安心することができました。

明主様のおかげで四人の子どもたちが皆明るく元気に育ち、毎日楽しく過ごしております。子どもがケガをした時、お腹が痛い時、つらい思っている時、いつでも自分で助けることができるので、私は心配することがとても少ないのではないかと思います。

浄霊を体験し、安心して生活できる方が少しでも増えることを願っております。

### 頭痛、肩の凝り良くなる

札幌支部 木下晴子(29)

私は生まれる前から浄霊をいた

いておりませんので、浄霊で育ち、大きな病気もせず、薬を飲むことなく生活してきました。

仕事はレストランのサービススタッフをしています。日頃から料理を運んだりしているため左腕に負担のかかる機会が多いこともあり、首肩から腕にかけての凝りがひどく、張ったような感じが残る日が多々ありました。このような状況が続く、ある日仕事から帰宅した後、寝る前に何かいつもと違う首肩の張りを感しました。

その日は、そのまま横になったのですが、その後だんだんとつらくなり、鈍い頭痛と歯の痛みでほとんど眠れないまま朝を迎えました。左側の頭の痛みと首筋から肩にかけてのひどい張り、それに伴う歯が浮いたような痛みが翌朝になっても治まらず、その日は仕事を休んで、支部で浄霊を二回いただきました。窓から差し込む日の光がつかなくなる程の頭痛や肩の凝りでしたが、おかげ様で大分楽になりました。その後、自宅でも母から浄霊をいただき、その日の夜はしっかりと睡眠をとることができました。

翌日は仕事休みだったので、その日も支部に行き、浄霊を二回いただきました。昨日より全体的に張りも取れ、歯の痛みや違和感もすっかり楽になり、食事もとることができました。

短期間で良くなり、翌日からは元気に仕事へ行くことができました。日々の健康維持は浄霊が基本にあつてのことですが、どんな時でも、浄霊で楽にしたいだけだと、改めて実感する体験となりました。

北海道札幌市

### 眩暈とふらつき 浄霊のおかげをいただく



周南支部 東清光(44)

私は昨年四月二十七日の午前三時頃、目が開いた瞬間、後頭部の内側を何か走り抜けるような感じがしました。そして、トイレに行こうと思いい、立ち上がろうとすると、視界が大きく右回転し、平衡感覚が保てず尻もちをついてしまいました。もう一度横になってその眩暈が治まるまで待ち、何とかトイレに行きました。戻って横になると仰向けに寝ましたが、しばらくは視界が右回転し、目をつむっても回転を感じました。その後その姿勢のまま自分で浄霊をいただいていますと、動悸が止まりましたが、やがて治まりました。おかげ様で意識ははっきりして、言葉もはっきりしてしまいましたので、眠っていた妻を起こして、明主様に御守護のお願いをしようとお願しました。その日は幸い仕事休みだったので、トイレ以外ほとんど動かずに布団の上で過ごしました。

私は自宅での仕事ですが、翌二十八日は午前中休んで、眩暈が少し落ち着いてきた午後から徐々にできる仕事をしました。おかげ様で二十九日には、車で四十分ほどの場所まで自分で運転して行くことができました。

五月二日の朝、今度は体自体が右回転するように感じ、まっすぐ歩こうとしても体が左斜め前に進むような感じになりましたので、一日横になり過ごしました。翌三日はゆっくりさせてもらい、それから一週間

は前頭部と首の後ろ側がつかなく、少しふらつく感じがありましたが、毎日浄霊をいただき、回転する感覚はなくなりました。朝が特につかなく、起きにくい日もありましたが、普段の仕事させてもらうことができました。

その後、現在に至るまで立ち上がれないような眩暈の状態になることもなく、コロナ禍の中でも休まずに働かせていただいています。

私は二十一歳の時にうつ状態になり、その後五年近く精神科の投薬治療を受けて、より深刻なうつ状態になった時に浄霊をいただくようになり、現在があります。浄霊をいただくことで体や心の状態が良くなる上に、たくさんさんの理解ある方々に恵まれるようになり、現在もこうして働かせていただいているのだと思えます。

人生を一八〇度変えていただいた浄霊に感謝しています。

明主様、誠に有難うございました。(山口県周南市)

### 浄化作用ってどういうこと？

人間には体内の毒素を排除して健康を促進しようとする働きがあります。例えば、カゼの場合、蓄積してきた不純物や体外から入ってきた毒素を浄化するために熱や痛みが出ます。そしてその結果ハナやタンなどが体の中が掃除され、霊・体共に清浄化されます。その毒素排除の過程を浄化作用と言います。ですから浄化作用は、体の不調和を調和させる、大切な清掃作用でもあるのです。

# 更年期障害や顔の歪み 数々のおかけをいただく



大牟田支部  
齊藤才子 (82)

私は明主様に御縁をいただいで七十年が過ぎ、日々命の継ぎ足しをいただいで何かお役に立ちたいと思いがら過ごしています。

小学生の頃に川で遊んでいて耳に水が入り、聞こえない状態を治療しても良くならず、困っている時に知り合いの紹介で、母親と一緒に新健康協会の支部へ行きました。夏休み中に浄霊をいただき、おかげ様で耳が良くなりました。また、そのことがきっかけで一家中御縁をいただきました。

その後、肘から手先までびつしりとグリーンピースのようなデキモノができました。ドクドクと拍動し、手を下げてもできないくらいさでした。浄霊をいただいで良くなり、おまけに小児喘息まで良くなりました。

その後結婚し、明主様の御縁が遠くなくなりましたが、四十八歳で夫を亡くしてから更年期障害のような状態になり、それまでほとんど病気にらしい病気がなかったのが、一気に体内のお掃除が始まったようでした。頭は輪っかがはまったかのように締め付けられ、まるでナイフでえぐり出されるような激痛と精神状態も不安定で、当時親戚から娘に「お母さん大丈夫なの？変な電話がかかってくるけど」と言われる程でした。外を歩いている時も「奥さん大丈夫ですか？」と声をかけられる時もありました。浄霊をよくいただいでいる

と間もなくたくさんの鼻血が出て、いつも赤いタオルを持ち歩く程でしたが、そのおかげで頭が楽になりました。

五十代の時、突然右腕が上がらなくなり、頭では動かしなかつたことも全く動かない状態になったことがありました。おかげ様で足は動きまいたので毎日支部で二回ずつ浄霊をいただき、二十日間自由で右腕が使えるようになりました。

それから七十歳になる頃のある朝、顔を洗って歯を磨き、口をゆすぐうとするけれど動かさず、突然のことで驚いて鏡を見ると、再度びつくりしたことに、右顔が下がって眉も鼻も口も歪んでしまっていたのでした。その時娘の所で毎日何度も浄霊をいただき、数カ月で良くなりました。浄霊をいただいでいると、バキバキ、ボキボキと音がして、思わず浄霊をしてきている娘に、「すごい音が聞こえるでしょ」と聞いた程でした。結局自分だけが頭の中で聞こえた音でしたが、なんとその時に顔の歪みが戻ったのでした。本当に明主様のお光はすごいと思いました。

顔が歪む一カ月前に一日だけとても頭が痛い日があったのですが、その時すでに頭の掃除が始まっていたのかもかもしれません。

以前からつらかった頭痛もいつの間にか楽になりました。七十代の時、数カ月正座ができないくらいに膝が痛い時もありました。浄霊をいただくとおかげ様で楽になり、かえって足が丈夫になったよう。浄化作用はお掃除だから後が良くなるのだとその時思いました。

あんなに激しかった病気が年月が経って忘れてしまう程ですが、これは生涯魂に刻んで忘れてはならない明主様からいただいたおかげと感謝しております。

中年の頃の激しい浄化作用がなければ今こうして八十歳を過ぎてても元気に動くことができなかつたかもしれないと思ひ、嬉しい毎日です。

世の皆さんが、明主様の御光をいただかれ、安心して暮らせますよう心からお念じ申し上げております。  
(福岡県大牟田市)

## 胃の快復車のトラブル回避 感謝で過ごす日々

豊中出張所 尾崎勝吉 (80)

今から五十年近く前のことですが、当時、北九州市小倉南区の自宅に配布された健康新聞で、浄霊のことを知り、最初に妻が新健康協会の小倉支部で会員になりました。その五年後、今度は私が東京支部で会員になりました。

人生山あり谷ありで、大変な出来事も多々ありましたが、浄霊をいただいでいると、何が起きても、大難を小難に変えていただくような結果となり、いつも大事にならずに済んでおりますので、この数十年、日々感謝の気持ちで暮らしてきました。

三十四歳からは東京で働いておりました。その頃は、自宅の藤沢(神奈川県)から職場まで、電車だけでも一時間の遠距離通勤をしていました。ある年の年末、仕事納めの日に、満員電車の中で気分が悪くなり、吐血と下血が同時に起きて倒れ、品川駅から救急病院に搬送されました。

すると次の日、血圧が下がって危険な状態になりましたが、この病院では、年末帰省で、スタッフが不足して手術ができず、救急車で東京女子医大病院に送られました。胃潰瘍と診断され、胃を三分の一

だけ残す緊急手術となりました。妻には「救命第一の緊急手術には後遺症の心配があります」との説明があったそうです。

手術は済んで、二週間後には退院の運びとなりました。自宅では薬を控えて、早速浄霊に通ったところ、日に日に元気になり、食事も美味しく、体重も増えました。多量の輸血もしていたのですが、心配されていた後遺症もなく、八十歳の今も元気に過ごしています。おかげ様で、快復の早さに浄霊の有難さを実感しています。

最近では、車のトラブルがありました。昨年九月、自宅から四十キロ程あるゴルフ場からの帰り道、運転中に点滅する警告灯が気になっていたので、山道ばかりだったので、寄るところもないまま、ゆっくり走って何とか家にたどり着きました。

早速修理屋に連絡し、翌日、この車で店に向かう途中、自宅から五〇〇メートル程走って、片側二車線の広い道路(国道)を左折しようとして左ハンドルを向けましたが、ハンドルを切ることができず、中央分離帯に乗り上げて、エンジンが止まりました。後方に車が来ないことを確認してギアをバックに入れたりしている、やっとエンジンがかかりました。幸い前方後方に信号が赤で車が来ず、そこを横切って脇道に入ることができ、直後にエンジンが切れました。そこから、トレーラーで運ばれました。原因は発電機の故障と判明しました。

もし、あのまま国道に入っていたら、多重事故も必至と思われる、振り返ればエンジンが停止した車が動いたこと、いつも交通量の多い道路で、私が脇道に入るまでの間、全く車が来ることなく、無事であったことは奇跡としか思われません。

## 感謝の心

心から感謝しました。誠に有難うございました。  
(兵庫県神戸市)

今年の九月、新健康協会の会員Tさんのお宅に泥棒が入るといいう出来事がありました。その日の明け方二時半頃、Tさんの奥さんが台所に水を飲みに行つたところ、勝手口が開いていたので、Tさんが閉め忘れたのだらうと思ひ、鍵を閉め再び休まれたそうです。すると朝になって台所の出窓が開いていることに気づき、泥棒が入っていたことが分かりました。

いつもだったら台所のテーブルの上に財布やバッグを置いて休まれていると思うのですが、その日に限って財布は作業着のポケットに入れたままにしており、バッグも台所のイスにかけていたのですが、その上からカーディガンをかけており、気づかれなかつたようです。Tさんは「最終的に盗られたのは車の中にあつた双眼鏡だけで、被害額も千円ほどでした。泥棒に鉢合わせしたり、高額被害となつたりせずに済みました。これも日頃から明主様にお守りいただいでいるからこそと思ひます。心から感謝申し上げます」と話されておりました。

# 浄霊入門 ⑩

(浄霊を体験したフランス人のつぶやき)

浄霊は比較できないものである。

浄霊は自然治癒をするエネルギーであり、霊的に目覚めるためのモノでもある。つまり、幸福に達するための方法であるが、まだまだ知られていない方法である。

新健康協会がよく耳にする言葉が、「ショウジョウ」「ダイジョウ」「イゾメ」だった。

フランス語には、それに適した訳がないため、「どういうこと」なのかさっぱりわからなかった。しかし、少しずつ話を聞いていくうちに、これらがいろいろな物事に対してのあり方、「姿勢」を表すことだと理解していったのだ。

小乗は、火素のエネルギーであり深く高い縦を表現する。大乘は、水素のエネルギーであり横の広がりを示す。そして伊都能売は、火素と水素、縦と横、小乗と大乘の完璧な結合、完全なる調和を意味している。

家庭内で例えるのなら、父親が「厳しさ」をもって正しいことを教える、小乗のつとめをしている。母親は、愛情豊かで、「ゆとり」のある大乘のつとめをしている。こどもは、その「厳しさ」と「ゆとり」のバランスのおかげですくすくと成長していくのだ。

浄霊にも大乘と小乗の活動がみられる。

浄霊は、人を助けて幸せにするための行いだから、大乘の行いともいっていいのかな。そして浄霊をいざと、霊が浄まり、霊界の存在を学びながらスピリチュアルのレベルも向上していくから、ここには小乗の行いもあるとっていいのかもしれない。

世の中には、極端な態度や行動が争いをまねくときがある。それもバランスがとれていないからだ。新健康協会のように、調和のバランスを求めていけば、きっと平和で心地よい世界ができるにちがいない。



明主様は、「美」による「心の浄化」を説かれました。世界の人々が美を築く時、それは文化の進歩にも貢献する事となり人間性の向上にもつながり、天国世界が出現することにもなると教示されました。

## 歌川広重作

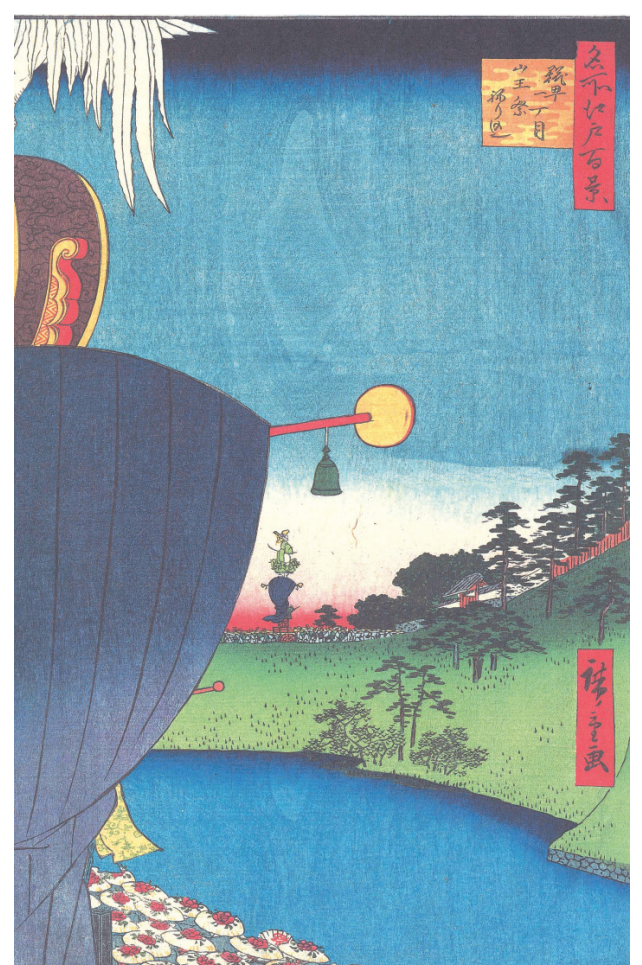
### 『名所江戸百景』之内

#### 糺町一丁目山王祭ねり込

祭りの日の晴れがましさが伝わってくるような『糺町一丁目山王祭ねり込』の図です。山王祭は六月十五日に行われる山王権現の祭礼で、九月十五日の神田明神の神田祭とともに「天下祭」と称され、江戸の人々を熱狂させていました。現在も日枝神社の大祭として受け継がれており、神田祭と隔年で挙行されています。

両社の祭礼行列は、江戸城内に入ることができ、将軍の上覧を受けることもありました。天下祭と呼ばれる所以です。神社が担う「神輿行列」と、町方による「山車行列」、そのほか踊屋台、地走り踊、練り物など、町方が余興として行った「付祭」とで構成された行列は大変壮麗で、山王権現の山車だけでも四十五輛あったとされています。

本作は安政三(一八五六)年に制作されていますが、この年の山王祭は安政大地震からまだ八カ月。復興途上の中で「例年通り行なうけれども付祭は城内には入れない」という御触れ通りに行われたことでしょう。画面右奥、猿の山車が進んでいく先に見えるのは、



入城口である半蔵門。地震の被害にあつた後、何度かに分けて修理が進められていたところでした。左側には画面に収まりきれない大きな鶏と太鼓の山車、その下方には花笠をつけた人々が付き従っており、半蔵門前の行列の人々と同じく、山車の大胆なクローズアップと対照をなすように細かく描き込まれています。

ところどころの絵には、現実と違うと指摘されているところがあります。山車の順序は、まず大伝馬町の「諫鼓鶏」、続いて南伝馬町の「御幣猿」と決まっています。絵とは逆のはずです。さらに山王祭の諫鼓鶏は五彩で、描かれている白い羽根は神田祭のものなのです。

生粋の江戸っ子である広重が間違ったとは考えにくいのですが、どうしてこのように描いたのか、未だ正解は分かっていません。美的な理由か、

それともこの年実際に神田祭の山車も参加したのか、あるいは何かメッセージを込めたのか……。ひとつ想像できるのは、この絵を見た江戸の人たちはすぐに気づいたであろうということ。時事を作画の契機にしつつも、歴史ある風物を題材にとり、それを詩的に表現した広重の作品を前に、人々はたくさん会話したのではないのでしょうか。

## 清明会館

「生を写し、真に迫る」後期展

期間：1月7日(木)～5月16日(日)

※清明会館お問い合わせ ☎(092) 661-1535

解説 松田愛子

健康新聞についてのお問い合わせ ☎(092) 661-1533 まで